

櫻井忠温 はなやぶ ちかひろ 陸軍軍人、隨筆家、小説家。明治十二年八月十一

日愛媛縣生れ、昭和四十年九月十七日歿（八七九—一九六五）。號落葉。陸軍士官學校卒。明治二十七年白鷺戰爭に従軍し、旅順戦の重傷を貰ふ。爾後體験記、戰場小説も多數發表。陸軍經理學校校長、陸軍省新聞班長も務め、昭和五年少將に退役。評論家櫻井鷗村の弟。『櫻井忠温全集』全七卷（昭和五年—六六年刊）がある。

著書 『HUMAN BULLETS (NIKU-DAN) (英文肉彈)』 (TRANSLATED FROM

THE JAPANESE BY MASUJIRO HONDA AND ALICE M. BACON' 明治四十年十

一月二十日丁未出版社。『肉彈 (縮刷)』大正八年十一月十日丁未出

版社。『肉彈 (旅順實戰記)』昭和八年五月十五日新潮社「新潮文

庫」。『NIKU-DAN 肉彈 (Menschenerporter)』ミンチンゲン獨逸譯、昭

和十五年六月二十日世界公論社。『鏡後』(大正二年二月五日丁未

出版社)。『雜囊』(大正二年十一月二十五日丁未出版社)。『草の

祈る』(昭和二年十一月十五日大阪・朝日新聞社)。『村の歸る』(昭

和五年十一月二十日春秋社)。『櫻井忠温全集 (櫻井忠温全集別巻)』

(昭和七年二月五日誠文堂)。『陸軍の誌』(昭和七年四月十五日誠

文堂「TO SEN LIBRARY」)。『ガム・マサク』(昭和七年五月二十五

日誠文堂)。『人・乃木將軍』(昭和七年八月二十五日大人社)。『戦

いこれからだ』(昭和七年十月十一日新潮社、再刊。八年十月二十八

日「新潮文庫」)。『草の祈る』(昭和七年一月十五日春陽堂「春陽

堂文庫」)。『銃剣は辨す』(昭和七年四月一日新

潮社)。『鉛と血』(昭和八年九月十五日河出書

房)。『斬首塚のある顔』(昭和九年六月十五日聖峯



社)、『肉弾』後二十年「百露戦役の想出」(昭和十年四月十日大  
 阪・朝日新聞社)、『銃後』(昭和十一年一月二十八日新潮社「新潮  
 文庫」)、『流血の五ノ肉弾終篇』(昭和十一年六月二十八日新潮社、  
 再刊・十二年十二月二十二日「新潮文庫」)、『武將論』(昭和十一  
 年十月二十五日大都書房)、『或る集團』(昭和十二年二月二十二日  
 大都書房)、『傷漢軍人成功美談集』(潤色執筆、合著、昭和十二年  
 一月六日日本軍人援護會)、『傷漢軍人捧ぐ』(合著、昭和十二年二  
 月二十一日陸軍省)、『新編將軍乃木』(昭和十二年十一月五日新潮  
 社「新潮文庫」)、『往年の學風』(合著、昭和十五年八月二十日朝  
 日新聞社編刊)、『大砲の秋』(昭和十六年十一月二十日新紀元社)、  
 『大乃木』(昭和十八年一月一日朝文  
 閣)、『戦ふ國・戦ふ人』(昭和十九  
 年八月十日偕成社)、『兵隊過去帳』  
 (昭和十九年七月一日読売新聞社)、  
 『哀しきものの記録』(昭和二十年  
 十二月二十日文藝春秋新社)等。  
 文獻、櫻井紫村作『肉弾  
 の詩流血』(明治四十二年五月十日百益林堂)、  
 福永渙著『櫻井大  
 尉の肉弾』(大正四年一月二十八日名著評論社、敎文館  
 「名著梗概及評論」)等。

